

基本理念

「情熱・使命感・信頼・感謝」を胸に、
地域(まち)への誇りと人の笑顔を創造する想いを次世代へ繋げ!!

基本方針



2017年度 一般社団法人深川青年会議所 理事長 東原大輔

【想い】

私が子供の頃、市内全町内会のイベントが数多くあり活気に満ち溢れていました。子供ながらそのイベントに参加するのがとても楽しかった事を記憶しています。

そのイベントで、先導に立って指揮を執りイベント参加者全員を盛り上げていた人物がいました。オーケストラを操るマエストロのような、厳しくも温かい優しさのある格好良さでした。今になりそのマエストロの正体は、青年会議所の人だったという事がわかりました。

自分が憧れていたヒーローのような人が、現在自分が所属している青年会議所のかつてのメンバーだった。そこに今自分が居る。その頃格好良いと思っていた人と今、同じ団体にいることを誇らしく思える。それが私の青年会議所にかける想いの原動力となっています。

地域(まち)を盛り上げ、皆の笑顔を生む。そして、よりよい未来を創る事が出来る場所。それが青年会議所です。私は深川という地から十数年の歳月を離れて暮らし、戻って来ました。戻ってきた時には、私の友人や知り合いは数える程しか居ませんでした。そして、青年会議所に入会して、今まで会ったことのない人ばかりで、初めはどのように接して良いのかわからず苦しんでいましたが、時が経つにつれ周りの雰囲気にも馴染み、また、気の合う仲間も出来、自分自身を表現出来るようになり、皆が一丸となって一つの事業を計画し、それが達成したときの喜びを知ることができました。今では青年会議所活動を楽しみながら充実した日々を送っています。

そして自分自身が楽しめる事だけではなく、地域(まち)に住んでいる人までも楽しませられる団体が青年会議所だと思います。本業と青年会議所活動にかかる時間の配分や、自分と同じ年代、同じ立場の仲間がこんなに近くに居たのかということに気付かせてくれたのがこの団体であり、仲間達との苦楽を分かち合う感動を、大人になってからも味わっている嬉しさ、最高です。今だからできる事、故郷に感謝して活動する事、青年会議所に入会しての醍醐味を、今感じています。それは、自分を成長させる絶好の機会だと自信を持って言えます。

【我が地域(まち)を盛り上げる】

我々の住む地域(まち)の現況は、人口減少と少子高齢化が進行し、だんだんと地域(まち)が暗礁化している状況に直面しています。この状況下だからこそ我々の出番であり、我々は地域(まち)の為を想い、地域(まち)を盛り上げるために、率先して活動し、かつて先輩たちが全力で築き上げてきたこれまでの素晴らしい事業や想いを継承し、現在より更に地域(まち)を発展させなければなりません。

地域(まち)の発展には色々な方策や考え方がありますが、地域(まち)に対しての内外の評価を高めることがひとつの要素であると考えます。もっと言えば「この地域(まち)を好きになってもらう」ことが大切なのではないでしょうか。そこにつながる道筋を考え、実行していくのが我々の使命であり、我々にしか出来ない新たな一歩を踏み出すことで、現況の殻を破り進歩することもあると思います。それらの行動を通じて地域住民自身も、「この地域(まち)に生まれ、育って良かった。地域(まち)を誇りに思う。」と感じて頂ける地域(まち)創りに我々は全力で取り組んでいきます。

【未来を担う子供達の為に】

私が子供の頃は、毎日陽が暮れるまで遊び、夕食の時間が近くなったら親が外まで出てきて「早く帰ってきなさい」と呼ぶ声が近所の至る所から聞こえてきましたが、近年このような光景がだんだんと見られなくなってきていると思います。悪いことをしたら親だけではなく、学校の先生や近所の人達が真剣に叱ってくれました。しかし今ではそのような事は難しくなりつつあります。今思うことは、自分が昔経験してきた子供時代とは、子供を取り巻く生活環境や大人から子供への接し方が変化してきているのではないかとことです。私は成長過程において自分で出来る事は極力自分で行うということが徐々に身に付いてきたと思いますし、その中で色々な事に関しても最後まで諦めない心を学び、そして人の言う事を聞ける心の余裕が出来ました。

しかし近年は子供たち自身に関する決定の殆どを親が行っているなど感じてなりません。このままでは感受性に乏しい子供が増えてしまい、周囲への感謝の心や頑張れる心が薄れてしまうのではないのでしょうか。

我々青年会議所では未来を担う子供達に対して、例年青少年育成事業を行っております。それらは子供達へ物質的な何かを施すわけではなく、将来子供達自身の成長の糧となる経験や機会であり、子供達自身の中にある感謝する心や色々な事に対して自主的に頑張れる心、そのような目に見えない可能性を伸ばす手助けをすることが青年会議所としての使命であり、未来へと繋げる真の財産であると考えます。

【会員の資質向上と出会いの嬉しさ】

多くの組織・団体で叫ばれているように、我々も会員減少という事態に直面しています。このまま会員が減少していくと、活動への支障が発生し、やりたい事が出来なくなると考えます。さらに言えばこれまで積み重ねられてきた歴史が消滅してしまう事さえあります。

青年会議所に入会すれば、本業との両立が難しく時間が作れない、例会等への出席が困難だという思いに直面することでしょう。しかし、入会しなければ時間の大切さを痛感する機会も、その時間を有効に活用する方法を身に付ける機会も、もしかしら訪れなかったかもしれません。時間配分を組み立てることを学び、様々な事業を構築する機会に触れるなかでリーダーシップや他者を思いやる和の心を身につけていき、少しずつ着実に個々人の持つ品格を磨き上げることができると思います。また、多業種の仲間が出来、今まで知らなかった事を学ぶことで、今まで感じた事のない気持ちが生まれ、そうやって出来た仲間はこれからも一生付き合う仲間として存在するでしょう。

深川青年会議所内だけではなく、全道、全国にも仲間が増える機会があります。例えば私は東京と茨城に例会事業で子供達を引率した時、今まで会ったことのない青年会議所のシニアの先輩が私に、「子供の引率は大変だと思うけど後になって良かったと思う時が絶対来るから頑張って」と声を掛けてくれたのです。この言葉の温かさほど嬉しいものはありませんでした。こう言ってくれる仲間や先輩が増えた事は青年会議所に入会しなければ実現しなかったのではないかと思います。この経験から人とのつながりが、青年会議所会員としての資質向上になによりも大きな役割を果たすことを感じ、胸を張って会員拡大出来る気持ちが持てるようになりました。

青年会議所会員として常に品格ある行動を心がけ、リーダーシップを発揮し、情熱・使命感・信頼・感謝の心を忘れずに日々の活動を行うことが、我々が胸に抱き続けるべき想いではないのでしょうか。その想いを絶やさず、これからも会員拡大運動を継続することが、青年会議所そのものを次世代へと繋げる契機になります。

【結びに】

我々一般社団法人深川青年会議所は、1954年からの長い歴史があります。

今日まで、多くの先輩達が築き上げてきたJC運動を我々は熱き情熱と使命感を持ちながら行動しなければなりません。そしてそれをこれからも連続と繋いでいくことが、我々に与えられた責務でもあります。またそれが出来るのは我々青年会議所だけだと信じております。

一般社団法人深川青年会議所というカラースプレーで、北空知の地域(まち)を今以上に色鮮やかに、明るく活気のある地域(まち)になるよう色付けし、周りの人達から頼られる組織にしていきたいと思います。それが我々の使命だ。

「地域(まち)を笑顔にするのは深川青年会議所、俺たちだ!!」